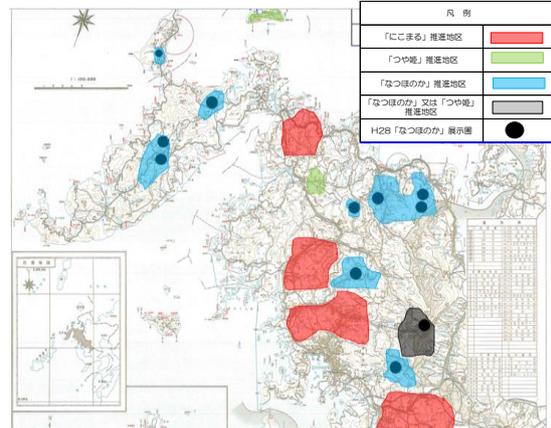


課題名	水稻高温耐性品種の生産安定及び作付面積拡大	振興局名	県北振興局
活動対象	ながさき西海農協水稻生産者	実施期間	平成28年4月 ～平成29年3月
<p>【対象の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ながさき西海農協水稻生産者（佐世保市、平戸市、松浦市、小値賀町、佐々町）（3,801ha、7,090戸） <p>【課題設定の背景】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「にこまる」は、作付を推進して面積が徐々に拡大したが、平成27年度は冷夏による1等米率の低迷、WCS用稲の拡大等で「ヒノヒカリ」からの転換が伸びなかった。 2 「つや姫」は、特別栽培に伴う肥料、農薬の使用制限がある。登熟期の水管理の不徹底等の課題があり、1等米率が高い産地と低い産地がある。 3 「なつほのか」は、極良食味の高温耐性早生品種であり、「あさひの夢」の代替、標高が高く「ヒノヒカリ」栽培が厳しい地区や野菜後作地区への普及が見込まれる。 <p>【活動目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「にこまる」は、適地マップを参考にして推進マップを作成し、「ヒノヒカリ」より経済的に優位なことを説明して作付を推進する。 2 「つや姫」は、各地区つや姫部会を対象に栽培技術を指導し、生産安定を図る。また、肥料展示圃を設置し、低コスト施肥技術を検討する。 3 「なつほのか」は、推進予定地区を中心に展示圃を設置し、立ち毛検討会や食味検討会を開催し、平成30年産からの普及に向けた活動を行う。 <p>【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 農協と連携し、「にこまる」の栽培技術指導、作付推進を行った。 2 農協と連携し、「つや姫」の栽培技術指導、展示圃設置・調査・検討を行った。 3 農協、市町、全農ながさき農産部、農産園芸課、農林技術開発センターと連携し、「なつほのか」の現地検討、展示圃成績検討、栽培基準検討、推進方策検討を行った。 <p>【活動経過】（活動体制、指導・支援の経過と手法等）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 管内における水稻高温耐性品種推進研修会開催に参画し、「にこまる」の需要が高いこと、「にこまる適地マップ」による適地適品種等を水稻農家、関係機関に周知した。「にこまる適地マップ」を参考にして「県北地域水稻高温耐性品種推進マップ」（案）を作成し、「にこまる」「つや姫」「なつほのか」の推進地区を検討した。営農座談会等で「にこまる」の優位性や品種の特徴を説明し、作付を推進した。瀬道地区で、「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更検討を支援した。単収・品質向上を図るため、適正な肥培管理、病害虫防除対策等を指導した。 2 「つや姫」の品質向上を図るため、溝切り機実演会、中干し検討会、穂肥検討会、収穫適期現地検討会、栽培反省会を開催し、栽培技術を指導した。 			
			
<p><「つや姫」溝切機実演会></p>			

- 3 「なつほのか」の県北地域における栽培技術確立、平成30年度からの産地化に向け、推進地区を中心に、展示圃を設置し、生育調査、収量調査、成績検討を行った。展示圃調査結果に基づき、平成29年度「なつほのか」栽培基準(案)を作成し、作物部会で検討した。
 作物部会で、「なつほのか」推進地区の平成30年度作付見込面積を検討した。
 平成29～30年度「なつほのか」推進方策(案)を作成し、作物部会で検討した。
 平成29年度「なつほのか」展示圃設置計画(案)を作成し、作物部会で検討した。



<「なつほのか」現地検討会>



<県北地域水稻高温耐性品種推進マップ>

【普及活動の成果】

- 1 水稻高温耐性品種の作付面積は396haとなり、目標を達成できなかったが、水稻面積が昨年度から109ha減少している中、高温耐性品種は6ha増加した。「にこまる」等の「県北地域水稻高温耐性品種推進マップ」が完成した。瀬道地区で、「ヒノヒカリ」から「にこまる」への品種変更検討が始まった。
- 2 「つや姫」の1等米率は93.3%となり、昨年度の25.8%から向上した。展示圃調査結果に基づき、平成29年度「つや姫」施肥基準を見直し、約1,500円/10aのコスト低減ができた。
- 3 展示圃調査結果に基づき、平成29年度「なつほのか」栽培基準を作成した。県北地域における「なつほのか」平成30年度作付見込面積が、70haになった。平成29～30年度の「なつほのか」推進方策について、関係機関で確認できた。平成29年度「なつほのか」展示圃設置計画について、関係機関で調整できた。

【対象の声】

- ・内容を十分に理解し、役立っている。ただし、集落に多い兼業農家が平日に参加できない場合がある。
- ・内容を十分に理解し、非常に役立っている。今後、農協や部会組織への指導回数を増やして欲しい。

【今後の課題】

- 1 「にこまる」は、米卸から引き合いの強い品種であり、水稻栽培講習会等で作付推進しているが、「ヒノヒカリ」の根強い人気等で、拡大が急速には進んでいない。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

- 1 「県北地域水稻高温耐性品種推進マップ」を活用し、標高100m以下の「にこまる」推進地区への作付を推進する。
- 2 1等米率が向上した「つや姫」の生産安定を図るため、適正な栽植密度、水管理、施肥、収穫期等栽培技術を指導する。
- 3 「なつほのか」の展示圃を設置し、県北地域の栽培技術(特別栽培、減農薬栽培)を確立する。また、推進方策に基づき、平成30年度以降の産地化に向けて支援する。

発表・参考資料

なし